

<p>教育学・心理学</p> <p>keyword</p>	<p>【代表的な研究テーマ】</p> <p>□ 小児聴覚情報処理障害の教育臨床心理的支援</p>
<ul style="list-style-type: none"> ■ 聴覚情報処理障害 ■ 発達障害 ■ 小児 ■ 教育臨床心理的支援 ■ 心身症 ■ イメージ療法 	<p>課題解決に役立つシーズの説明</p>
<p>芦谷 道子 Michiko Ashitani</p>	<p>研究概要</p> <p>聴力検査では異常がないにもかかわらず、日常生活において聞き取りに問題を抱える「聴覚情報処理障害(APD: Auditory Processing Disorder)」という障害が、近年欧米諸国で注目され、スクリーニング検査によって乳幼児期早期より医学的、教育的対応がなされている。主な問題は、騒音下での聞き取り、左右耳の聞き取りのバランス、劣化音声の聞き取り、聴覚記憶・注意の脆弱性などといった聴覚的障害であるが、二次的に心理的側面、学習面、対人関係面においても困難を抱えやすく、医学的、教育的、心理的支援が求められる。我が国においても評価や支援法について検討され始めているが、標準的な評価法もまだ確立されておらず、支援についてもまだ不十分な現状である。筆者は耳鼻咽喉科医師と連携し、聴覚医学的側面、教育臨床心理学的側面より小児の聴き取りの問題に対する研究、支援を模索している。また APD のみならず、発達障害児における聴き取りの問題、心因性難聴などの耳鼻咽喉的領域における心身の支援についても実践を行っている。子どもは心の問題を身体にて表現しやすく、心身を総合的に診る視点が必要となる。耳、鼻、喉にまつわる症状を通して、子どもたちの心の声に耳を傾け、現代の子どもの抱える体とこころの問題を深く見直し、望ましい心身の手当てについて探っていくことを目的としている。耳鼻咽喉科領域における心理的ケアについては、日本ではあまり試みられておらず、耳鼻咽喉科医療従事者に対する啓蒙的活動にも携わっている。現在携わっている主たるテーマは以下の通りである。</p>
<p>教育学部 教授</p>	<p>① 小児 APD の評価法の開発</p> <p>聞き取りに関する訴えは、他の発達障害(知的障害、広汎性発達障害、注意欠陥・多動性障害)においても多く見られる症状であり、APD が聴覚モダリティ特有の障害であるのか、他の障害に付随して起こるものなのかについても見解が分かれている。対応を模索する上では他の障害と判別するための評価が重要となる。APD 評価のための必要な質問紙検査、聴覚心理学的検査、電気生理学的検査、心理検査について検討し、既存の研究との比較を行っている。現在は、雑音付加語音明瞭度スクリーニング検査の開発と、雑音聴力低下の P300 による他覚的評価の試みを行っている。</p> <p>② 小児 APD の教育臨床心理学的支援について</p> <p>APD 支援について先進的な海外の研究を踏まえ、タイプ別の望ましい教育臨床心理的支援について模索している。家庭や学校、医療機関との連携を含めた環境調整をはじめ、教育的支援、聴覚的支援、心理的支援について臨床的に検討している。二次的な心理的問題が顕在化している小児に対しては、心理療法を導入している。小児は内面の言語化が未熟であるため、箱庭や描画を用いた表現療法や認知行動療法的手法を用いており、今後はマインドフルネス的手法の導入を検討している。</p>
<p>【専門分野】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床心理学 ・教育臨床心理学 	<p>③ 子どもの心身の問題と学校教育について</p> <p>APD や心因性難聴を始めとする様々な子どもの心身の問題に向き合い、学校教育の中での教育臨床心理学的見解を生かした子どもへの対応について模索している。具体的には、学校教育の中で子どもの心身医学的問題、発達障害への支援を模索し、特別支援教育という枠組みにどのように活かしてゆけるかについて、理論的、実践的に検討している。またいじめや不登校といった心理的問題を抱える小児に対する心理臨床的支援についても検討している。</p>
<p>【プロフィール】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●博士(医学) ●臨床心理士 ●2001年 大阪大学大学院 人間科学研究科 博士後期課程 単位取得 退学 ●2007年 滋賀大学 教育学部 特任講師 ●2012年 滋賀大学 准教授 ●2018年 滋賀大学 教授 	<p>●2000年 関西医科大学 非常勤嘱託</p> <p>●2009年 大阪大学大学院 非常勤講師</p> <p>●近江八幡市いじめ問題 専門委員会 委員長</p> <p>●栗東市いじめ対策 連絡協議会 委員</p>
<p>【主な社会的活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●2000年 関西医科大学 非常勤嘱託 ●2009年 大阪大学大学院 非常勤講師 ●近江八幡市いじめ問題 専門委員会 委員長 ●栗東市いじめ対策 連絡協議会 委員 	<p>企業・自治体へのメッセージ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの聴こえの問題に関する共同開発・共同研究を希望します。 ・マインドフルネスを子どもの心理療法に取り入れる研究にご協力いただける企業(自治体)を探しています。
<p>【主な著書・論文】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「心因性難聴」2005 中山書店 ●「心因性難聴女児の箱庭に表現された楽園の世界からの考察」2006 心理臨床学研究 24 ●Clinical features of functional hearing loss with inattention problem in Japanese children. 2011. International Journal of Pediatric Otorhinolaryngology.75 	 <p>箱庭の設置されたカウンセリング・ルーム</p>